

不可思議“穴持たず”に注意

今年度は、福島県内でのクマの目撃件数、人身被害件数が急増し、過去最多の状況となりました。連日相次いだツキノワグマ目撃や被害のニュースに多くの方が不安な日々を過ごされたことと思います。冬場になっても活動を続け、人の生活圏を脅かすクマに今後も警戒が必要です。県のクマ対策の取り組みの紹介とともに、県民の皆さんにご注意いただきたいポイントを紹介します。

クマ出没警報 会津・中通り
クマ出没注意報 浜通り
発令中 1月15日まで

※この画像はイメージです

穴持たずクマ から 体と命を守る ための 3カ条

01

“放置されたエサ”がクマを呼ぶ

第1条 **誘引物** に注意!



空腹のクマはエサを求めて、私たちの生活圏近くまで出てきます。放置生ゴミや畜舎の飼料、倉庫の穀物、未収穫の果物・野菜がクマを誘引してしまう「誘引物」となります。今一度お住まいの周辺を確認してください。

02

“空き家や倉庫”がクマの寝ぐらに

第2条 **建造物侵入** に注意!



冬になるとエサが少なくなり、空腹でも冬眠しなければなりません。若く経験の少ないクマや母クマからはぐれた幼いクマは、空き家や空き倉庫、民家の縁の下などを「仮ねぐら」とする可能性があります。**地域の人に声をかけて、時々見回りをしましょう**

03

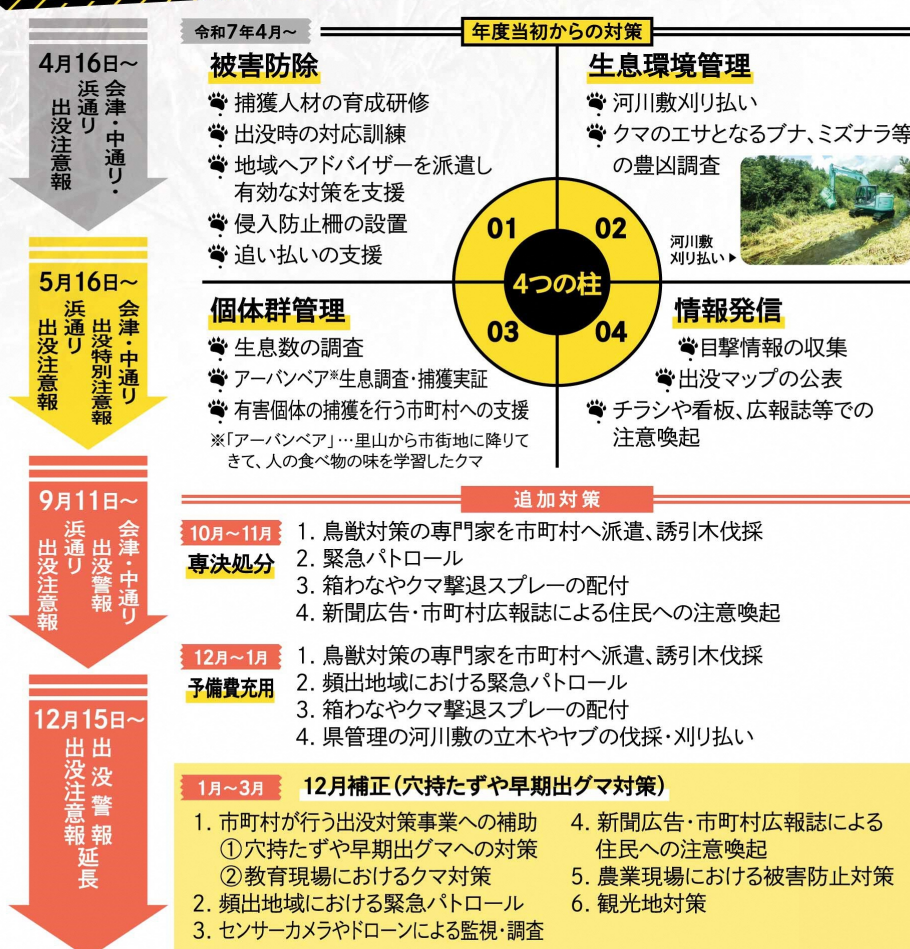
“クマの痕跡”をスルーしない

第3条 **フィールドサイン** に注意!



フィールドサインとは、クマが出没した後に残される、足跡やふんなどの痕跡。雪が積もればフィールドサインが見つけやすくなります。建物へ頻繁に侵入している場合は、周辺にたくさんの痕跡が残されています。

福島県はどんな対策をしているの?



ツキノワグマに対して福島県は主に**4つの柱**に基づいて各種対策を行っています。さらに、昨年の目撃件数や人身被害件数の大幅な増加を受け、令和7年10月及び12月からは、緊急パトロール、箱わなやクマスプレーの市町村への配布、河川敷の刈り払いを行うなど緊急的な対策を行っています。また、1月からは、こうした取り組みに加え、穴持たずや早期の出グマ対策として、センサーカメラによる監視、ドローンによる生息調査、市街地出没訓練や住民向け学習会、学校等へのクマスプレー配布などを行っています。**県民の皆さんには、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。**

目撃件数や人身被害件数が過去最多を大きく更新!!

10月16日 「緊急関係部局長会議」を開催
[参加者] 知事、両副知事、関係部局長、関係市町村、県野生動物調査専門官

各地域における緊急連絡会議を開催

9月30日 南会津地域
10月17日 会津地域
[参加者] 市町村、警察、学校関係者、県自然保護課 他

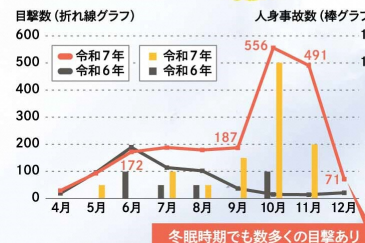
11月8日 総合防災イベント「そなえる・ふくしま2025」(小名浜潮目交流館)において“ツキノワグマへの注意喚起ブース”を設置
・県民の皆さん一人一人にクマから命を守るための備えを伝えました。
・知事が県民の皆さんに直接メッセージを伝えました。



クマ注意喚起ワークショップ



致命傷を防ぐ「うつ伏せ防御」姿勢



目撃情報は常に地域で共有を!

フィールドサインやクマを目撃した場合は、最寄りの役場や警察に連絡してください。
福島県ホームページ「ツキノワグマ目撃情報」



「穴持たず」って? 冬になるとクマは冬眠するイメージの方も多いでしょう。しかし、なかなか冬眠に入らないクマもいるのです。冬眠しないクマを、猟師言葉で「穴持たず」と言います。